

2 景観形成に適した果樹類の選定

ねらいと成果

近年、県下各地で道の駅や農業公園などが開設されてきており、そのような場所は都市住民、地元住民の憩いの場、また県民交流による地域活性化の場として利用されている。

そこで、集客観光施設の整備に適した果樹を選抜するために、観賞用や景観形成の点について各樹種の適性を評価した。その結果、開花時には花が大きく目立つアーモンドなどが、また紅葉時にはブルーベリーが、それぞれ景観形成が優れていると考えられた。

内容

1 各樹種の生育期

景観形成が優れていると思われる各樹種の開花期と、紅葉が優れている一部樹種の紅葉期について調査した。その結果、ウメは早晩品種を組み合わせると開花期間が約1か月続いたが、その他の樹種は10日前後であった。紅葉期間については、カキは10日程度だったが、ブルーベリーは早晩品種を組み合わせると1か月続いた(表1)。

2 景観形成の評価

(1) 各樹種の花弁の面積と単位樹容積当たりの着花数を調査したところ、花が小さいプラムは着花数が多く、花が大きい樹種(アーモンド、マルメロ等)は着花数が少ない傾向であった。

また単位樹容積当たりの全花弁面積はアーモンドが一番大きく、プラムが一番小さかった(表2)。
 (2) アンケート調査による開花時の各樹種の美しさについての評価は、アーモンド、ネクタリン、リンゴ(バレリーナツリー)が比較的高く、プラム、マルメロは比較的低かった(図)。また紅葉時の評価では、カキの「丹麗」、「錦繡」にあまり差は無かったが、ブルーベリーはカキの両品種より評価が高かった(図省略)。

(3) 全花弁面積とアンケートでの花の評価の関係をみたところ、全花弁面積が大きい樹種ほど、開花時の花の評価が高い傾向がみられたが、マルメロはやや評価が低かった(図、表2)。これはマルメロの花が白く、開花時には葉がかなり展葉しているため、花があまり目立たないためと考えられた。

今後の方針

今回の調査結果をもとに各樹種を組み合わせることで、集客観光施設等での開花、紅葉を長期間維持することも可能で、またそのような施設の景観形成を保つ上で参考になると考えられる。しかし、今回の調査は幼木での結果であるため、今後成木での調査が必要であると考えられる。

宗田 健二(北部農技・農業部)

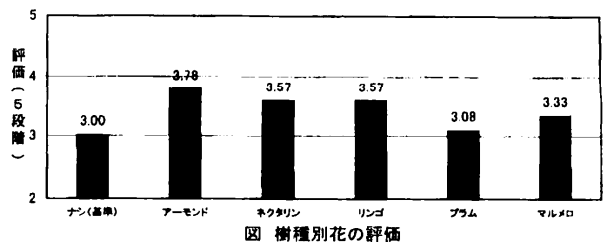
表1 各樹種の生育期(北部農技内)

樹種	品 種 数	開花期						紅葉期								
		3月			4月			5月			11月			12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ウメ	4	■	■	■												
プラム	7				■	■	■									
アーモンド	1				■	■	■									
ネクタリン	4				■	■	■									
ブルーベリー	4				■	■	■									
リンゴ	4							■	■	■						
カリン	2							■	■	■						
マルメロ	3							■	■	■						
ブルーベリー	10										■	■	■	■	■	■
カキ	2													■	■	■

注) ■...開花期 ■...紅葉期
 各樹種の品種
 ウメ:「甲州小梅」、「南高」等、プラム:「プラム井上」、「秋姫」等
 ネクタリン:「メイグランド」、「フレーパートップ」等、カリン:「毛氈」、「伊那」
 リンゴ:「メイポール」、「タスカン」等、マルメロ:「スミルナ」、「ミノワ」、「カオリ」
 ブルーベリー:「レッドキュー」、「スタンレイ」等、カキ:「丹麗」、「錦繡」
 プラム:「コリンズ」、「パークレイ」等のハイブッシュ系

表2 各樹種における花の面積、着花数及び花弁占有面積

樹種	樹齢 (年生)	1花当たりの 花弁の面積(cm ²)	単位樹容積当たり の着花数(個/m ³)	単位樹容積当たりの 全花弁面積(m ² /m ³)
アーモンド	7	18.1	740	13.40
ネクタリン	7	15.2	630	9.64
リンゴ	8	15.9	540	8.60
プラム	5	2.7	1330	3.64
マルメロ	7	23.1	420	9.70



注) アンケートはナシを基準とした。アンケートは2000年と2001年の2回実施し、評価はその平均値を示した。アンケートの回答者は2000年は北部農技職員(対象42人)、2001年は県農林漁業祭の来場者の一部(対象81人)。